

2025年 第1週 12月30日～1月5日

西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141

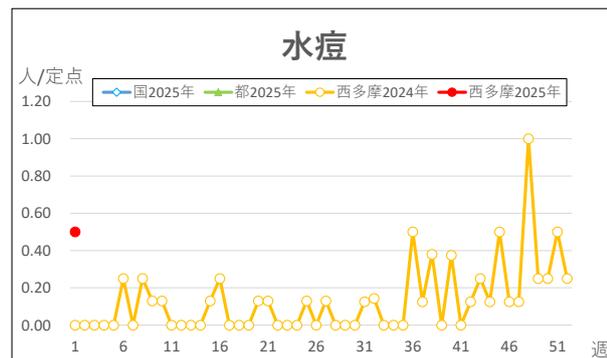
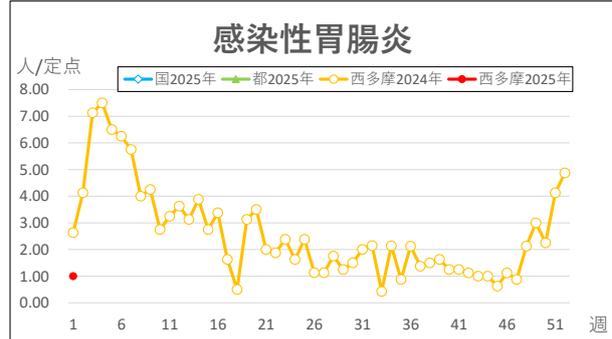
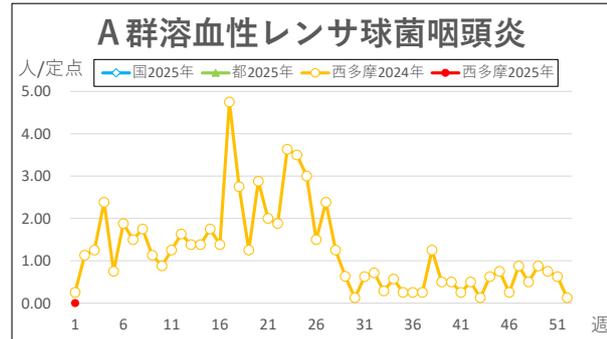
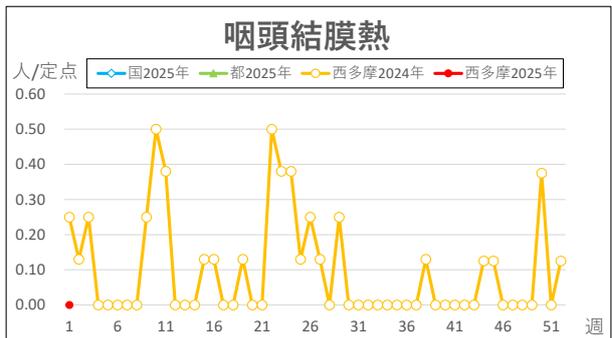
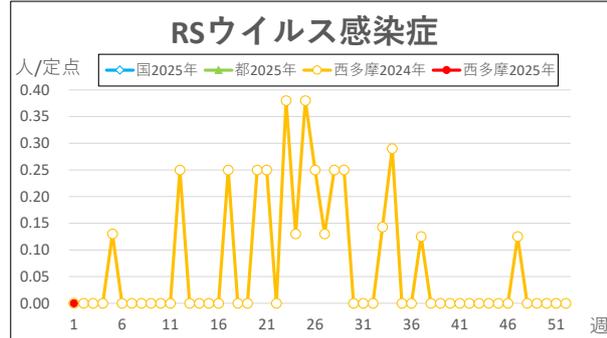
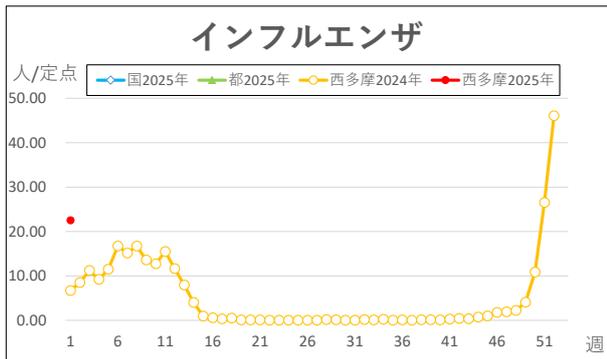


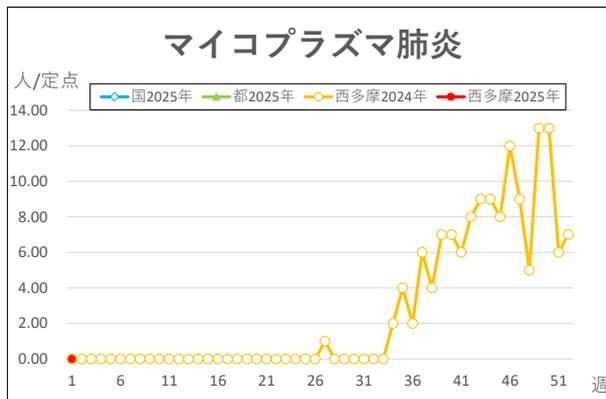
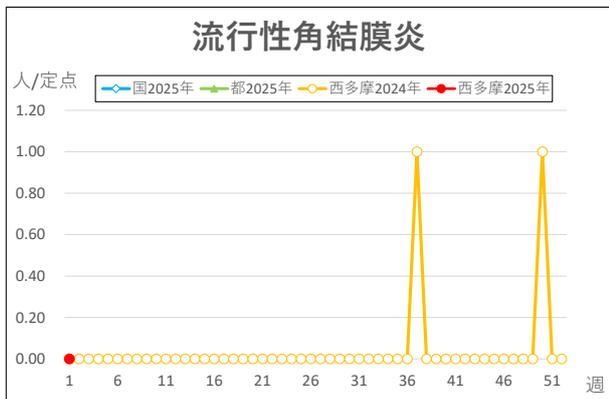
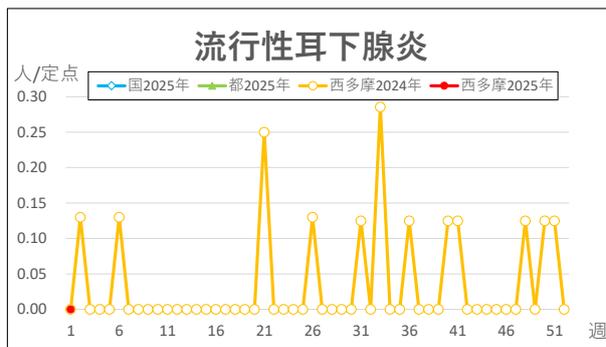
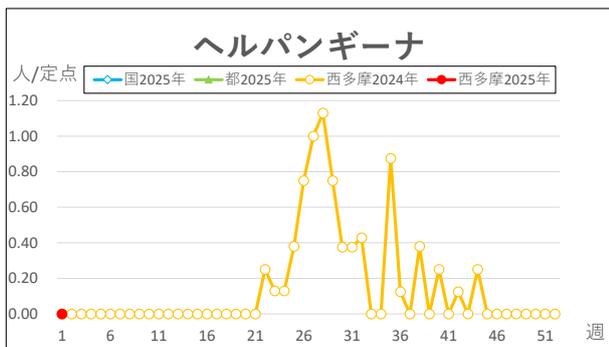
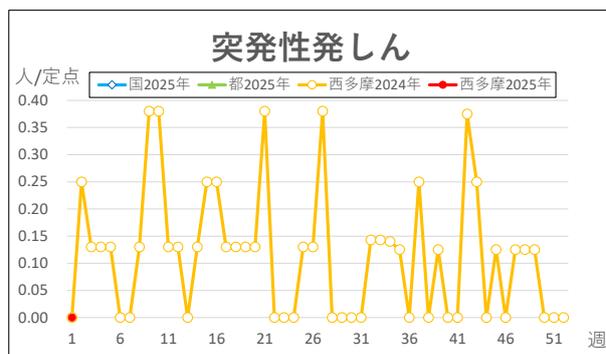
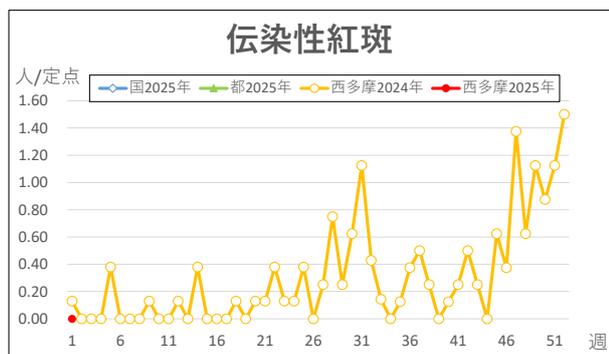
管内の発生動向及び定点把握対象疾患 () は内訳又は前週値

- 全数届出の疾患は、報告がありませんでした。
- 定点報告は、**インフルエンザ**は22.50 (46.07) で、都全体においても警報基準を超えています。**新型コロナウイルス感染症**は2.50 (4.21)、**感染性胃腸炎**は1.00 (4.88)、**マイコプラズマ肺炎**は0.00 (7.00)、**伝染性紅斑**は0.00 (1.50) です。第1週は、定点医療機関の休診日の影響で定点当たり患者報告数が前週までより低く、今後の動向に注意が必要です。

管内の感染症集団発生状況 () は内訳

- インフルエンザ1件 (医療機関1件) の報告がありました。
- ※第1週は、国と都の報告が遅れているため、西多摩のみの報告になります。





今週のトピックス ~ インフルエンザ ~

【どんな病気？】

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症です。通常の急性上気道炎（かぜ）に比べ全身症状が強く出やすいことを特徴とします。



【原因及び感染経路は？】

原因となる病原体は、インフルエンザウイルス（Influenza virus）です。インフルエンザウイルスにはA型・B型・C型があります。C型はヒトでの流行は起こりにくいとされています。近年、国内で流行しているのは、AH3亜型（いわゆる香港型）、AH1pdm09（2009年に流行したインフルエンザ）、B型の3種類です。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

【症状は？】

1～3日の潜伏期間の後、38℃以上の発熱、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛、関節痛などを呈します。おう吐や下痢など消化器症状が見られる場合もあり、子供、高齢の方、免疫力が低下している方などでは重症化して肺炎や脳炎になることがあります。

近年、インフルエンザの療養中の小児や未成年者に、飛び降り、急に走り出すなどの異常行動が見られる場合があることが報告されています。

【治療や予防法は？】

- 治療は、症状に応じた対症療法が中心ですが、抗インフルエンザ薬を使用する場合があります。
- 予防接種は、重症化の予防を目的としています。予防には、手洗いと咳エチケットが有効です。



※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

東京都感染症情報センター <https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/flu/flu/>

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu.html>



～ 疥癬（かいせん）～ 施設等で1人でも発生したら保健所へ一報を！

〔管内の発生状況〕

西多摩保健所管内では、疥癬による集団感染が毎年発生しており、2019年は2件、2023年は6件、2024年は7件と増加傾向にあり、高齢者施設や医療機関から報告が来ています。

〔疥癬について〕

- 疥癬は、ヒゼンダニが皮膚の最も外側の角質層に寄生して起こる感染症です。通常型と角化型の2種類があります。
- 潜伏期間は1～2か月と長いです。感染経路は、人と人との接触感染がほとんどです。
- 確定診断は、検鏡でヒゼンダニの虫体や虫卵、卵の抜け殻等を検出することですが、検出率は60%前後で皮膚科医でも診断が難しいです。
- 治療は、ヒゼンダニを殺すことを目的とした飲み薬や塗り薬があります。また、かゆみに対してはかゆみ止めの内服薬を用います。

	通常型	角化型
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100万～200万匹
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ（丘疹、結節） 疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態 （角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔、頭を除いた全身	全身



〔感染拡大予防のために〕

- 集団感染源となりうる角化型は、自覚症状は軽度か無い場合もあります。さらに認知症等の高齢者では症状を訴えることも難しいと考えられます。
- 日頃から、皮膚の観察をしっかりと行い、疥癬の疑いがある場合は、早期に皮膚科を受診しましょう。**
- 施設や医療機関等で感染を広げないためには、疥癬が発生した場合、**施設や医療機関等の間で情報を共有し、感染力の強い角化型の患者を早期に発見し、治療につなげる**ことが大変重要です。

※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/380-itc-intro.html>

直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数

	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	1週	1週目からの累計
新型コロナウイルス感染症	11	22	17	21	41	42	55	15	15
インフルエンザ	25	27	31	57	152	371	645	135	135
RSウイルス感染症	0	1	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	3	0	1	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	7	4	7	6	5	1	0	0
感染性胃腸炎	9	7	17	24	18	33	39	4	4
水痘（みずぼうそう）	1	1	8	2	2	4	2	2	2
手足口病	25	13	10	7	8	6	5	1	1
伝染性紅斑	3	11	5	9	7	9	12	0	0
突発性発疹	0	1	1	1	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0	0	1	0	1	1	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	0	0	1	0	0	0	0

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。

○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。

○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として木曜日に発行いたします。

○データの出典元は、下記のとおりです。国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。

〈出典〉東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/>

国のデータ：国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>